

## 安全データシート

改訂日:2024年3月22日

## 1. 製品及び会社情報

化学品の名称  
推奨用途  
会社名  
住所  
電話番号

ペルオキシ二硫酸カリウム  
試験研究用  
米山薬品工業株式会社  
大阪市中央区道修町2丁目3番11号  
(06)6231-3555(大阪・本社)  
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)  
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)  
BA0217

整理番号

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性  
健康に対する有害性

酸化性固体:区分3  
急性毒性(経口):区分4  
皮膚腐食性・刺激性:区分2  
呼吸器感作性:区分1  
皮膚感作性:区分1  
特定標的臓器:区分2(全身毒性)  
(単回ばく露)  
特定標的臓器:区分3(気道刺激性)  
(単回ばく露)

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
火災助長のおそれ:酸化性物質  
飲み込むと有害  
皮膚刺激  
吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
臓器(全身毒性)の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】  
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。  
衣類などの可燃物から遠ざけること。  
可燃物と混合を回避するために予防策をとること。  
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。吸入を避けること。  
取扱い後はよく手をあらうこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
換気が不十分な場合、呼吸器用保護具を着用すること。  
【応急措置】  
気分が悪いときは医師に連絡すること。  
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。  
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。  
ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。  
皮膚刺激又は発疹が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。  
呼吸に関する症状が出た場合、医師に連絡すること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。  
火災の場合、消火のために適切な消火剤を使用すること。  
【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで保管すること。  
施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。  
該当情報なし。

他の危険有害性

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学物質

化学名

ペルオキシ二硫酸カリウム

別名

過硫酸カリウム

化学式

$K_2S_2O_8$

化学物質を特定できる一般的な番号

CAS RN: 7727-21-1

濃度又は濃度範囲

95%以上

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

(1)-456

その他

HSコード: 2833.40

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息すること。  
呼吸に関する症状が出た場合、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

気分が悪いときは、医師に連絡すること。  
多量の水と石鹼で洗うこと。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。  
皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。  
水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
目の刺激が持続する場合は、医師の診断/手当を受けること。  
口をすすぐこと。  
直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合

飲み込んだ場合

5. 火災時の措置

適切な消火剤

適切な消火手段を用いる。

使ってはならない消火剤

情報なし。

特有の危険有害性

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。  
加熱により容器が爆発するおそれがある。  
加熱されたり、火災に巻き込まれると、爆発的に分解するおそれがある。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
水が十分に供給されていないときは蒸気濃度を低下させるだけにする。  
容器が熱に晒されているときは移動させない。  
適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

特有の消火方法

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業者は適切な保護具を着用し、眼や皮膚の接触や吸入を避ける。  
漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外の立入りを禁止する。  
密閉された場所に立入る前に換気する。  
環境中に放出してはならない。  
漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。  
水で湿らせ空気中のダストを減らし分散を防ぐ。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化の方法及び機材/二次対策防止策

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
皮膚との接触を避けること。  
飲み込まないこと。

<p>接触回避</p>	<p>環境への放出を避けること。 可燃物(木、紙、油、布等)、可燃性物質や還元性物質、強塩基水の存在下で塩素酸塩・過塩素酸塩やアルミニウムなどの金属と反応し爆発のおそれ。 取扱い後はよく手を洗うこと。</p>
<p>衛生対策</p>	
<p>保管</p>	
<p>技術的対策</p>	<p>消防法の規制に従う。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。 冷気、換気の良い場所で保管すること。 可燃性物質、還元性物質、強塩基から離しておく。 施錠して保管すること。</p>
<p>安全な保管条件</p>	<p>消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。</p>
<p>容器包装材料</p>	
<p>8. 暴露防止及び保護措置</p>	
<p>許容濃度等</p>	<p>未設定</p>
<p>管理濃度</p>	
<p>日本産業衛生学会</p>	<p>未設定</p>
<p>ACGIH</p>	<p>TLV-TWA 0.1mg/m<sup>3</sup>(過硫酸塩として)</p>
<p>濃度基準値</p>	<p>未設定</p>
<p>設備対策</p>	<p>この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。</p>
<p>保護具</p>	
<p>呼吸器の保護具</p>	<p>適切な呼吸器保護具を着用すること。</p>
<p>手の保護具</p>	<p>適切な保護手袋を着用すること。</p>
<p>目の保護具</p>	<p>適切な眼の保護具を着用すること。</p>
<p>皮膚及び身体の保護具</p>	<p>適切な保護衣を着用すること。</p>
<p>9. 物理的及び化学的性質</p>	
<p>物理状態</p>	<p>固体</p>
<p>色</p>	<p>無色～白色</p>
<p>臭い</p>	<p>微刺激臭</p>
<p>融点/凝固点</p>	<p>該当情報なし。</p>
<p>沸点又は初留点及び沸騰範囲</p>	<p>該当情報なし。</p>
<p>可燃性</p>	<p>該当情報なし。</p>
<p>爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界</p>	<p>該当情報なし。</p>
<p>引火点</p>	<p>該当情報なし。</p>
<p>自然発火点</p>	<p>該当情報なし。</p>
<p>分解温度</p>	<p>&lt;100°C(分解)</p>
<p>pH</p>	<p>液は酸性を示す。3.2(20°C, 50g/L)</p>
<p>動粘性率</p>	<p>該当情報なし。</p>
<p>溶解度</p>	<p>1.75g/100mL(水,0°C),5.2g/100mL(水,20°C) アルコールに不溶。</p>
<p>n-オクタノール/水分配係数</p>	<p>該当情報なし。</p>
<p>蒸気圧</p>	<p>該当情報なし。</p>
<p>密度及び/又は相対密度</p>	<p>2.5g/cm<sup>3</sup></p>
<p>相対ガス密度</p>	<p>9.3(空気=1)</p>
<p>粒子特性</p>	<p>該当情報なし。</p>
<p>10. 安定性及び反応性</p>	
<p>反応性、化学的安定性</p>	<p>法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。 加熱すると、激しく燃焼または爆発することがある。 加熱すると分解し、有毒なヒューム(硫酸化物など)を生じる。 強力な酸化剤であり、可燃性物質や還元性物質と反応する。 水溶液は中程度の強さの酸である。 水の存在下、塩素酸塩、過塩素酸塩と激しく反応し、爆発の危険をもたらす。</p>
<p>危険有害反応可能性</p>	<p>火災に巻き込まれると、燃焼を加速する。 加熱されたり、不純物が混入すると、爆発するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 加熱、水との接触、不純物の混入、可燃物との接触。 可燃物(木/紙/油/布等)、可燃物物質や還元性物質、金属粉末、強塩基。水の存在下で塩素酸塩・過塩素酸塩・アルミニウムなどの金属と接触すると爆発のおそれ。 有毒で腐食性のヒューム(硫酸化物など)</p>
<p>避けるべき条件</p>	
<p>混触危険物質</p>	
<p>危険有害な分解生成物</p>	

11. 有害性情報

急性毒性

[経口]ラットを用いた経口投与試験のLD50値1,130 mg/kg(雄)(SIDS(2005)、NICNAS(2001)、IUCLID(2000))から区分4とした。

[経皮]ラットを用いた経皮投与試験のLD50値>10,000 mg/kg(SIDS(2005)、NICNAS(2001))から区分外とした。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

動物については、ウサギを用いた皮膚刺激試験で、「not irritating」(SIDS(2005))旨の記述があるが、暴露時間等の詳細は不明である。ヒトについては、本物質の17.5%水溶液を4時間適用した試験で「刺激性あり」(SIDS(2005))旨の記述がある。SIDS(2005)は結論として、ヒトについては本物質の5%以上の水溶液で「can cause skin irritation」と記述している。以上より区分2とした。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性  
呼吸器感受性

該当情報なし。(分類できない)

ヒトについては、in vivo 免疫学的試験(皮膚プリック試験)で「製造工場従業員の52人中2人が本物質のみに陽性、3人が類縁物質のジアンモニウム塩(CAS No. 7727-54-0)のみに陽性、3人が本物質とジアンモニウム塩両方に陽性であった。陽性結果と肺機能のわずかな低下には相関傾向がみられた」(SIDS(2005))旨の記述がある。また、SIDS(2005)では、美容師に職業性喘息の報告もあり、「ヒトでの試験報告は、本物質が職業暴露で呼吸器感受性物質であることを示す」と結論している。以上より、区分1とした。なお、EU分類はXi; R42/43(EU-Annex I)であり、区分1に相当する。

皮膚感受性

ヒトについては、SIDS(2005)では、本物質の2.5%溶液を適用したパッチテストで研究補助業務で1件、美容師について1件の陽性報告が記述されている。また、類縁物質のジアンモニウム塩(CAS No. 7727-54-0)については、美容師に職業暴露として、「湿疹、皮膚病、吹き出物がみられた」(SIDS(2005))、「アレルギー性皮膚炎がみられた」(NICNAS(2001))旨の記述があり、SIDS(2005)は「ヒトでの試験報告は、本物質が職業暴露で皮膚感受性物質であることを示す」と結論している。以上より、区分1とした。なお、EU分類はXi; R42/43(EU-Annex I)であり、区分1に相当する。

生殖細胞変異原性  
発がん性  
生殖毒性  
特定標的臓器毒性(単回暴露)

該当情報なし。(分類できない)

該当情報なし。(分類できない)

該当情報なし。(分類できない)

ラットの経口致死量を求める単回投与試験で、「活動低下(depression)、浅い呼吸(weak breathing)、呼吸促進が認められた。これらの症状は、生存動物においては4日以内に回復した」(SIDS(2005))旨の記述がある。この影響は区分2のガイダンス値の範囲内で見られた。また、ヒト影響として、「鼻汁、呼吸困難」(SIDS(2005))との記述もある。以上より、区分2(全身毒性)、区分3(気道刺激性)とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)  
誤えん有害性

該当情報なし。(分類できない)

該当情報なし。(分類できない)

12. 環境影響情報

生態毒性

信頼性のある急性毒性データが得られていない。水溶液が強酸となることが毒性の要因と考えられるが、環境水中では緩衝作用により毒性影響が緩和されるため、区分外とした。

残留性・分解性  
生体蓄積性  
土壤中の移動性  
オゾン層への有害性

該当情報なし。

該当情報なし。

該当情報なし。

当該物質はモンリオール議定書の附属書に列記されていない。(分類できない)

13. 廃棄上の注意

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。  
空容器の処理を委託する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号  
品名(国連輸送名)  
国連分類  
容器等級

1492  
過硫酸カリウム  
クラス5.1  
III

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

国内規制がある場合の規制情報

陸上輸送  
海上輸送  
航空輸送  
応急措置指針番号

消防法の規定に従う。  
船舶安全法の規定に従う。  
航空法の規定に従う。  
140

15. 適用法令

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)  
化学物質管理促進法(PRTR法)

特定化学物質に該当しない。  
第1種指定化学物質(第2条施行令第1条別表第1)[ペルオキシ二硫酸の水溶性塩]

毒物及び劇物取締法  
労働安全衛生法

該当しない。  
名称等を表示すべき危険物及び有害物(第57条・施行令18条)[ペルオキシ二硫酸カリウム]

名称等を通知すべき危険物及び有害物(第57条の2・施行令18条の2)  
[ペルオキシ二硫酸カリウム]

安衛則第594条の2第1項が適用される皮膚等障害化学物質等  
[ペルオキシ二硫酸カリウム]

消防法  
航空法  
船舶安全法  
港則法

危険物に該当しない。  
酸化性物質類(施行規則第194条危険物告示別表第1)  
酸化性物質類(危規則第3条危険物告示別表第1)  
酸化性物質類(施行規則第12条)

16. その他の情報

参考文献

NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)

17423の化学商品(化学工業日報社)

国際化学物質安全性カード(ICSC)

ChemicalBook

職場のあんぜんサイト(厚労省HP)

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。